

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 5 月 4 日

所属	政策情報学部	職名	准教授	氏 名	淵元 哲
研究課題	境界の政治経済学のための哲学的人間学の試論				
研究キーワード	模倣 物神崇拜 共通感覚 構想力	当年度計画に對する 達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連する SDGs項目	16. 平和と公正をすべての人に	該当なし	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

本研究については、下記に記すように第 20 回政策情報学会研究大会（2024 年 12 月 於：慶應義塾大学三田キャンパス）にて「分有と分立に基づく社会存在論の分析枠組みの試論」というタイトルで報告したことで、一応の研究成果を出すことができた（なおこの研究については近日中に論文にして、同学会に投稿する予定である）。研究内容を要約すると、①外界に対する模倣は、その生命の維持のために行われるものとしても、結果的にその自己の自立性（境界線）を失うことにもなり得る（ホルクハイマー&アドルノ）、②境界線を作りつつ、また壊すというのは人間の本性なのであり、それは田辺元が提示した「分立」と「分有」という観転換からの「哲学的社会学」と接続できるものである、③しかし田辺は「血」と「地」に基づくという民族共同体を前提としており、一般性に欠ける、④ゆえにこの点を改変し、いかに一般理論化するかの試みを提示する、というものである。研究大会では好意的な質問を多くいただくことができた。このことも踏まえて論文化を急ぐ予定にしている。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

【学会発表等】

第 20 回政策情報学会研究大会（2024 年 12 月 7 日 於：慶應義塾大学三田キャンパス）

https://policyinformatics.org/event/convention/20th/convention-20th_program.pdf (pp.10~11)

標題：「分有と分立に基づく社会存在論の分析枠組みの試論」

3. 主な経費

経費のほとんどは、関連図書の購入費用に充てている。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

（本文は 2 ページ以内にまとめること）